

高市大輔さん（環境科学専攻・博士前期課程1年）が第69回セメント技術大会で優秀講演者賞を受賞しました

5月12日から5月14日に、ホテルメトロポリタン（東京都豊島区）で行われた第69回セメント技術大会において、大学院自然科学研究科環境科学専攻社会基盤・建築学コース・博士前期課程1年の高市大輔さんの研究発表が優秀講演者賞を受賞しました。

本研究では、コンクリート構造物の長期供用のための基礎資料を得ることでコンクリート構造物の維持管理や設計に役立てることを研究目的としました。具体的には、大正時代に建設され、長期間供用された鉄道橋コンクリートの分析をセメント水和物に着目して実施しました。また、コンクリートの分析を行う際に骨材の影響を排除するために、骨材とセメントペーストを分離する骨材分離の手法を確立しました。結果として、本手法を確立し、分析精度が向上したことで、当時のセメント組成による要因と長期間経過したことによる要因からその構造物の変質を確認することができました。

発表者：高市大輔（新潟大学大学院自然科学研究科・博士前期課程1年）、

（指導教員：斎藤 豪 准教授、佐伯 竜彦 教授）

演題名：長期暴露したコンクリートにおけるセメント水和物の化学分析と炭酸化機構に関する検討

リンク：<http://www.jcassoc.or.jp/cement/1jpn/ji1a.html>



左図 セメント技術大会のポスター

右図 受賞した賞状